

会議の名称	令和2年度 伊予市健康づくり・食育推進協議会
開催年月日	令和3年2月17日（水）
開始・終了時刻	午後1時30分から午後3時30分
開催場所	伊予市保健センター
会長氏名	田中美和会長
副会長氏名	佐々木典彦副会長
出席委員（者）氏名	田中美和委員、佐々木典彦委員、曾我郁恵委員、竹内竜美委員、土井一成委員、武本侑也委員、安渡偉典委員、友澤千代委員、川中千種委員、坪内由紀委員、向井早苗委員、向井裕臣委員
欠席委員（者）氏名	井手一仁委員
傍聴者氏名	傍聴者無し
事務局職員職氏名	下岡裕基健康増進課長、篠原知美健康増進課長補佐、大谷香代子健康増進課長補佐、影浦ひとみ健康増進課長補佐、山内朋子健康増進課係長、松浦あずさ健康増進課主任歯科衛生士、小倉直子健康増進課主査、中岡尚子健康増進課主任
説明者の職氏名	篠原知美健康増進課長補佐、小倉直子健康増進課主査
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 自己紹介</li> <li>3 協議会について</li> <li>4 会長、副会長の選任について</li> <li>5 議事 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)各機関、団体等の健康づくり・食育推進関係の取組及び課題について</li> <li>(2)伊予市の健康づくり・食育推進への取り組み状況について</li> <li>(3)意見交換</li> </ol> </li> <li>6 その他</li> <li>7 閉会</li> </ol>
配布資料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○資料1 今年度の健康づくり・食育推進関係の取組及び課題</li> <li>○資料2 令和2年度伊予市健康づくり・食育関係事業実施一覧表</li> <li>○資料3 健康づくり計画における指標の変化</li> <li>○第2期伊予市データヘルス計画中間評価報告</li> <li>○令和2年度伊予市と大塚製薬株式会社との健康増進に関する包括連携協定の取組</li> <li>○高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施（市町村における実施のイメージ図）</li> </ul>



	<p>きながら平成30年3月に伊予市健康づくり食育推進計画を策定させていただきました。本市といたしましては、本計画等に基づく総合的体系的な取り組みを推進し、各目標の1日も早い達成を目指して参りますが、そのためには、皆様の関係機関、また関係団体の皆様との協議のもと、一体的に推進していくことが不可欠と考えております。そういった面からも委員の皆様におかれましては、それぞれのお立場で御支援、御協力をいただきますよう、よろしく願いいたします。</p> <p>なお、これまでの生活を大きく変容させました新型コロナウイルス感染症でございますけれども、国はその対策の一環としてワクチン接種に向け、準備作業を進めております。</p> <p>くしくも本日、国内のワクチン接種第一号がなされたとの情報をいただいております。本市におきましても、国の予算措置に合わせ、県の御指示をいただきながら、一日も早い接種体制の構築に努めて参りますので、市民の皆様へは、また今後早い時期に情報提供できるものと考えております。</p> <p>最後になりますけれども、コロナ禍において個人個人にあった継続的な運動や活動の取り組み、また正しい食生活の実践は更に重要になって参ります。この後本計画の進捗状況や今後の予定等について、報告があるというふうにかがっておりますので、委員の皆様には忌憚のない御意見を賜りますようお願いし、開会の挨拶とさせていただきます。本日はよろしく願いいたします。</p>
事務局	<p>今年度は委員の改選の年となっており、9月に皆様に委員委嘱をさせていただきます。本日の協議会につきましては、委員13名のうち、12名の御出席をいただいておりますので、過半数に達しておりますので、伊予市健康づくり・食育推進協議会条例第6条第2項の規定により本協議会が成立しておりますことを御報告させていただきます。</p>
	<p>なお、伊予市校長会会長 井手一仁委員から欠席の御連絡がございましたので、御報告いたします。</p>
田中美和委員	<p>また、委員の改選後、初めての協議会でございますので、委員の皆様にご自己紹介をお願いしたいと存じます。お配りしております委員名簿の順に簡単な自己紹介をお願いいたします。</p>
佐々木典彦委員	<p>それでは、田中先生よりお願いいたします。</p> <p>たなか消化器科クリニックの田中と申します。生活習慣病とがん検診とかやっております。よろしく願いいたします。</p>
	<p>佐々木と申します。私は歯科医師で、下吾川で開業しております。よろしく願いいたします。</p>
曾我郁恵委員	<p>松山東雲短期大学の曾我と申します。主に保育所での研究を進めてい</p>

竹内竜美委員	<p>ます。よろしくお願ひします。</p> <p>失礼します。愛媛県中予保健所の主幹の竹内でございます。よろしくお願ひいたします。本日、健康づくり推進係の係長の千葉も一緒に来させていただいております。よろしくお願ひいたします。</p>
土井一成委員	<p>失礼します。昨年度から伊予商工会議所専務に就任しております土井でございます。よろしくお願ひいたします。</p>
武本侑也委員	<p>伊予市青年農業者連絡協議会の武本と申します。昨年までは徳田という者が担当してたんですけども、今年から私が担当させていただくことになりました。大平の方でミニトマトを作っております。まだ就農をして4年目になるんですが、これから農業のことをいろいろ発信できたらと思っておりますので、またよろしくお願ひします。</p>
安渡偉典委員	<p>安渡偉典と申します。伊予市健康づくりの会の会長をやっております。皆さんの健康寿命増進に向けた取り組みをいろいろやらさせていただいております。出身は中山町です。どうぞよろしくお願ひします。</p>
友澤千代委員	<p>失礼します。伊予市食生活改善推進協議会の会長をしている友澤です。よろしくお願ひいたします。</p>
川中千種委員	<p>失礼します。伊予市立中山小学校の養護教諭の川中です。よろしくお願ひします。</p>
坪内由紀委員	<p>港南中学校栄養教諭坪内です。よろしくお願ひします。</p>
向井早苗委員	<p>一般から応募させていただきました向井早苗と申します。栄養の方に興味がありまして、栄養の勉強をして、病院給食にかかわってきました。その間思い出すことは、子どもの健康は栄養教諭さんたちの学校でやっていらっしゃるので、大人が漏れてるとというのがすごく気になって、栄養教育に興味を持っていましたので、参加させていただきました。よろしくお願ひします。</p>
向井裕臣委員 事務局	<p>改めまして向井でございます。本日はよろしくお願ひいたします。ありがとうございました。続きまして、事務局を紹介いたします。担当課となります健康増進課長下岡でございます。よろしくお願ひいたします。</p> <p>健康増進課の影浦と申します。よろしくお願ひいたします。</p> <p>同じく健康増進課の篠原でございます。よろしくお願ひいたします。</p> <p>健康増進課の山内と申します。よろしくお願ひします。</p> <p>同じく健康増進課の松浦と申します。よろしくお願ひいたします。</p> <p>同じく健康増進課の小倉と申します。よろしくお願ひいたします。</p> <p>同じく健康増進課の中岡と申します。よろしくお願ひいたします。</p> <p>それではここで協議に入ります前に当協議会につきまして、事務局より説明いたします。</p> <p>失礼します。お手元でございます協議会条例を御覧ください。</p>

本協議会は、第2条にごございます事項について調査及び審議をするものでございます。

最初に、健康増進法に基づく健康増進計画の策定に関すること、2つ目に食育基本法に基づく食育推進計画の策定に関すること、3つ目に計画の見直しに関すること、4つ目に健康づくり及び食育に関する施策の推進に関すること、以上の4点でございます。

続きまして、委員の任期でございますが、第4条にごございますとおり、委嘱又は任命の日の属する年度の翌々年度の3月31日となっております。今年度、委員委嘱させていただきましたので、令和5年3月31日までの任期となります。ただし、任期中に委員が入れかわった場合、補欠委員の任期は、前任者の残任期間となります。

次に、委員の報酬に関しまして御説明いたします。

市の審議会等におきましては、伊予市特別職の職員の報酬及び費用弁償に関する条例に基づきまして、委員の皆様は報酬をお出ししております。会長の報酬は月額1万5,000円、その他の委員の報酬は5,700円でございます。

簡単ではございますが、以上で協議会の趣旨等についての説明を終わります。

続きまして、会長及び副会長の選任についてでございます。協議会条例第5条の規定では、協議会には会長及び副会長を各1名置き、委員の互選によりこれを定めることになっております。

会長及び副会長の選任について、各委員の皆様、御意見はございませんでしょうか。

(意見無し)

それでは、意見が無いようですので、事務局案といたしまして、会長に田中美和様、副会長に佐々木典彦様をお願いをしたいと思いますがいかがでしょうか。御承認の方は、拍手をもってお願いいたします。

(拍手多数)

ありがとうございました。皆様の御承認をいただきましたので、田中美和様を会長に、佐々木典彦様を副会長にさせていただきます。田中会長、佐々木副会長、前の席に移動をお願いいたします。

御指名に当たりました田中ですが、なにぶん不慣れでございますが、進行を務めさせていただきますと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

副会長に御指名いただきました佐々木と申します。どうぞよろしくお願いいたします。会長に田中先生という話をお聞きしまして、そして私は歯科ですから、これで入口から出口までそろったなあと思えました。以上です。

田中美和委員

佐々木典彦委員

事務局	<p>ありがとうございました。それでは、この後の議事進行につきましては、協議会条例第6条の規定に基づき、田中会長に議長をお願いしたいと存じます。田中会長よろしく願いいたします。</p>
田中美和委員	<p><b>それでは、</b>次第にそって議事を進行させていただきます。まず協議事項の1、各機関、団体等の今年度の健康づくり・食育関係の取り組みの課題について、資料1の順番で各委員より、報告をお願いいたします。</p>
竹内竜美委員	<p>失礼いたします。中予保健所、一番始めになっておりますので、私の方から説明させていただきます。様式1ということで、愛媛県中予保健所の職場対抗ヘルスアップ選手権事業について御説明させていただきます。併せて資料の中に、このようなチラシが入っているかと思しますので、併せて見ていただければと思います。保健所の方では、職場対抗ヘルスアップ選手権、この名前と呼んでおりますけれども、職場の仲間と楽しみながらコミュニケーションを図って健康づくり意識を高め、事業所間での健康づくりの機運を醸成することと、それから健康づくり21の目標達成を目指しまして、そういう地域の働く世代の健康づくりに取り組んでおるところでございます。昨年から2年目ということで、昨年は笑顔の健康支援プロジェクト事業所と言いまして、歯に関する協力事業所を保健所の方で募っていたのですが、限定企画ではございましたが、今年の中予地域の事業所に勤務している方々に、皆様にホームページ等で呼びかけまして開催をしています。チラシの方を見ていただきますと、エントリー方法というところで、職場チーム部門と事業所取組部門という二つの部門があるかと思えます。職場チーム部門の方は、職場の仲間3～5人で1チームを作り、代表者を決めてエントリーとなります。目標を二つ選ぶとありますが、それが裏側になりまして、「健康づくり目標一覧」というものを作っております。昨年は三つ選ぶようにしておったんですけど、少し減らした方がいいのかなということで、二つにしまして、チームの共通目標、3人で必ず毎日守る目標と自分が健康づくりのために何か取り組む目標というのを二つ決めていただきまして、エントリーをしていただきます。例えば運動のところを見ていただきますと、丸1から丸5まで、これは普通の数字になっておりますが、A、Bということでアルファベットで目標を作っておるものもあります。昨年する中で、目標が簡単だったと言われる方もありましたので、あの各カテゴリーのところにありますアルファベットの目標は、理想的な生活習慣を目指す人のために、少し今年度は目標を改善しております。それぞれの3つの、3人、4人で一つの目標を毎日守っていくこと、そして個人の努力で1つは自分の決めた目標を守っていきまして、これをチームで団結して健康づくりをしていくという形になります。いざ実践ということで、真ん中辺りに競技期間を書いておりますが、9月28日から11月22日8</p>

週間の取組になります。先ほど決めました目標を、例えば朝ご飯を毎日食べるであるとか、一日何歩あるくとか、自分の目標を8週間毎日取り組んでいただきまして、できたら○をつけていただいて、できたら1点、できなかったら0点として、チームの平均点を競うような形になっています。

職場チーム部門はそのような取り組みをするんですけれども、もうひとつ事業所取組部門につきましては、事業所で従業員のために取り組んでいる健康づくりを教えてくださいということで、よい取り組みをしているところは、中予保健所のホームページで紹介していただくようになっております。実際、昨年度、元年度は172チーム851人の参加でしたが、今年度は191チーム、人数が少し減りましたので、1チーム3人というところもありますので、全体人数は769人と少し減りましたが、参加チームとしては昨年より多く取り組んでいただいているところです。それで、この職場対抗ヘルスアップ選手権の事業といいますのは、実はキックオフセミナーと言いまして、昨年その運動の方法がわからなかったという声とか、正しい歯磨き、どんなふうにしたらいいんだろうとか、いろんな声がありましたので、職場対抗ヘルスアップ選手権を開催する前にキックオフセミナーとしまして、運動の専門家とか歯科衛生士であるとか、いろいろな方が集まってセミナーを開く予定でしたが、あの新型コロナウイルス感染症の拡大ということで、やむなくキックホームセミナーは中止ということになりました。しかしながらお家時間が増えるということで、厚生労働省などがお家でできる体操という動画を作られておりましたので、ホームページの方でそういう題材を入れまして、お家で実践できる方法ということ、今年度は自主学習を入れながら、お家で実践できる環境づくりを保健所の方で整えていったところです。

そして、そちらに書いてあります健康フェスタ中予、これは1月10日で考えておりました。職場対抗ヘルスアップ選手権でがんばったチームを表彰したりであるとか、あと健康づくり体験コーナーなどを作って、いろいろ健康づくりに取り組んでいただく予定でありましたが、これもコロナの拡大がありまして、やむなく中止ということで、現在表彰式だけでもできるように企画を進めているところですが、コロナの関係もありまして、計画を変更してやっておるところです。

後、みきゃん健康通信と言いまして、健康づくりの情報の提供とか、従業員の健康づくりに取り組む事業所の紹介などを、事業所向けに月に1回程度配信メールをしております。

また、職場対抗ヘルスアップ選手権に関しましては、運営会議やワーキング部会を開きまして、事業企画もいろいろな方々に入っていた

きましてしておるところですが、今年度につきましては書面開催ということで開催しておるところです。実際なんですけれども、昨年度の健康づくり職場対抗ヘルスアップ選手権に参加した方々の中で、今後も健康づくりを継続したいという方が、58パーセント235人いらっしゃったんですけれども、引き続いて今年度も参加していただき、208人くらいの方が参加していただいています。実際に本当にたわいもない目標かもしれませんが、実際に先ほどのチラシの目標の方を見ていただいたらと思うんですけれども、グループ目標で選ばれた目標は、運動のところの1番にあります「3階以内は階段を使う。」であるとか、食事のところであれば「体重計にのる。」とか、運動であれば「夜ストレッチや運動をする。」とか、そういう風な小さな目標なんですけれども、これらに取り組んでいただいた方につきましては、ほんとうに身体の調子がよくなったという風な継続することで健康づくりに、体がよくなってきたという感想をいただいた方が多いですし、こういうちょっとした取り組みの中で、健康づくりに進んでいっていただく土台作りができたらいいなということで、最終年度、来年度は、3か年計画でやっておりますので、来年度は3年目になるんですけれども、最後まで引き続き同じような取り組みになりますけれども、働く世代の健康づくりを進めていきたいと思っておるところです。以上です。

土井一成委員

続きますは、商工会議所でございます。資料の2ページです。私も商工経済団体ということで、まあいわゆる職場事業所単位での健康づくりという観点から取組を進めておりまして、健康づくり全般にわたるものでございます。

基本的には資料の取り組み内容に記載しておりますとおり、いわゆる私どもの会員を対象に少子高齢化を生き抜くための健康経営セミナー、最近テレビ等でもよく報道されておりますけれども、こういったセミナーを昨年度開催したことを踏まえまして、まずは我々商工会議所の中で健康経営の推進に取り組もうとしているところでございます。そのコンセプトといたしましては、いわゆる高度経済成長のころは、いわゆる企業の財務状況がどうか、企業の健康がどうかということが主眼でありましたけれども、現在では社員の健康が重要な企業資源というようにとらえておりまして、それらがゆくゆくは生産性の向上や企業イメージアップ、更には各地域の活性化につながるものと考えているものでございます。

現在の取組といたしましては、昨年健康経営優良法人の認定申請を商工会議所として提出いたしました。その提出に際しまして、職員のアンケートをとりました。内容は生活習慣7項目、アンケートの項目ということで、食べ物、飲み物、運動、禁煙、心の健康、睡眠、適正飲酒に関して合計70の質問をいたしましたところ、それぞれを5段階のレベルで

武本侑也委員

把握したのですけれども、その中で心の健康についての認識が低い、無関心であることが判明いたしました。私ども、全部で9名の小規模な団体でありますので、和気あいあいとやっているといえばそれで済むんですけれども、心の健康というのは、いつ誰がどうなるかわからないということで、改めてストレス関係の疾患の発生予防・早期発見・対応を目的として、ストレスチェックを活用して、その結果を改めて本人にフィードバックしていこうというような計画をたてているところでございます。

もっとも基本的なことですけど、定期健康診断と2次検査の100%受診、それと管理職による職員の健康管理に取り組んでいるところです。今後は、これらを管内の企業の経営者の方々にも広めて、いわゆるこういう健康経営セミナーという概念を広めていくことが課題ではないかと考えております。以上です。

青年農業者協議会の報告をいたします。私どもは農業者の集まりでございまして、食育のところで取組をしております。残念ながら、資料の方にも記入しておりますけれども、コロナウイルス感染症予防のために、予定していたことは、今年度はできなかったのですが、まあ一応予定していたところの報告をいたしまして、ひとつはあの、例年やらせていただいているのですけど、なかむら保育所さんでの食育活動ということでトウモロコシの収穫体験・試食体験ということをやっております。来年度に関しては、また相談しながら、状況をみながら検討していきたいと思っております。

地産地消の方ですけども、これに関しましては、露天販売のイベントなどで、青年農業者協議会会員が自ら作った作物を対面販売させていただくことをやらせていただいております。これもまた来年度に関しては、状況をみながら、なるべくできればいいかなとは考えております。

後、私の方から少し発信したいことがあったのですが、これは追加資料の2の括弧の4というところの地域固有の農作物品種の発掘についてというのが、書いてますけども、これは青年農業者全体というよりか、私個人がちょっとやりたいと思っているところで、あの今、農産物の品種というのが、あの大手の種苗メーカーさんの品種がほとんど、固有の品種というのがかなり無くなってきています。例えば松山長ナスという長ナス、ご存じの方がいらっしゃれば、ああ松山長ナスねと、まあ長ナスですけども、この長ナスもかつてはこの地域に固有の長ナスの品種が本来だったんです。今は京都にある種苗メーカーさんの別の品種に置き換わっていて、この品種が松山長ナスという名前で売られています。本来の松山長ナスとは違うのだけど、名前は松山長ナスで売られていて、このように地域に固有に存在していた品種というのがけっこう失われ

ていってると、そして、この松山長ナスに関しては、幸いにも今保存されているところがあって、その苗を入手することができるのですが、それすらもほとんどなくなっていて、もうその人が種をとるのをやめたら無くなっちゃうみたいなの、そういう品種もけっこうあるのです。こういう資源が失われるのはもったいないということで、誰か我々の方でそれを存続させたり、あるいは伊予市の独自のものだとか愛媛県独自のものだというので、発信できたらなあという風に思っています。食育とはちょっとかすってるといふか、直接食育活動ではないかもしれないんですけども、そういう方向から発信できたら、伊予市ではこういう品種があったんだよと、こういう目的をもってこういう風な品種を作っていて、ここで作られていたんだよというようなことを発信できたら、興味を持っていただけるひとつのきっかけになったらいいかなという風に思っていますので、もしそういう情報がありましたら、できたら共有させていただければということで挙げさせていただいた次第です。

それと一番下の会議で協議したい議題があればということなんですけど、伊予市の学校給食センターさんとの連携について一方的にちょっと書いてしまったんですけど、これもですね、実は、今年度にちょっと聞かせていただければいいなと思ってたんです。昨年度考えてですね、我々青年農業者の農産物を学校給食の方に提供させていただくことはできないかと、私個人としては更にもっと踏み込んで、例えば食育の総合的な学習の時間のときに農業のことをこうお話しさせていただくとか、そういうふうなことをふまえて学校給食さんと何か連携できないかなと考えてはいたんですけど、コロナウイルス感染症の拡大したことで、お声がけする機会が無くなり、できてない状態ではあるんですけど、今後そういう取り組みをやりたいという風に考えておりますので、できるようになったら、また御協力いただけたらと思います。そういう形で農業の現場の方からの情報を発信していきたいのでよろしく願います。

田中美和委員

はい、ありがとうございます。伊予市学校給食センターとの連携についてという点で、坪内委員、何かございませんか。

坪内由紀委員

伊予市給食センターでは、昨年度、そういった会議を情報交換会ということで開催しておりまして、昨年度は地元農業生産者の方、それから農協、栄養教諭等を交えまして、給食センターの方で話し合いを持っております。そして今年度も持つ予定だったんですけども、こういったコロナ禍ということでなかなか今年度は開けなかったんですけど、来年度はそういう会を持ちたいので、是非協力していただけたら大変ありがたいなと思っております。ただ私たちが一番ネックになっているのは、やはりあの量的に、そのときにそろそろかが大事なところで、やは

りコーディネーターとなる方がどなたかいらっしゃったらということで、現在だったら、わりと伊予市の産物を取り扱っているのがセンター立ち上げのときからお世話になっているおひさま市さんが大体主となって伊予市の産物を集めていただいて、うちは入札制ではあるんですけども、伊予市の給食センターのために伊予市の食材をかき集めて、金額も入札制ではあるんですけど、伊予市産は少し高いこともあったりはするんですけども、できるだけ使わせていただいております。農協さんが食材を集めてくださる、そして伊予市の産物、そのときに、本日も雪が後ろでちょっとちらちらはしていたんですけど、雪が降っていたり天候の加減で伊予市の産物が集められないという場合には、急遽県内産を集めてくださって、農協の方で管理をしていただいているという状況です。それで、やっぱりうちとしては、その日の食材が届かなければ困りますので、必要量が確実に届く、それから、例えばこのくらいしかできなかつたということで、この前もブロッコリーも、マイクよりもちっちゃいブロッコリーがたくさん届きまして、もう実もこれくらいしかない、伊予市産はありがたいんですが、それは余り食べる部分もなかつたりして、ちょっと別の商品をと無理なお願いをしたこともあったんです。玉ねぎも中を割ってみないとわからないということで、今年度の特に最初の方、1学期には中身がかなり腐ってはいたんですけども腐りを除きながら、でもすごく手間はかかるんですけども伊予市の玉ねぎということで、だいぶ玉ねぎも伊予市の食材を中心で使わせていただいております。やはり、その日の食材を間に合うように、集めてくださるコーディネーター的な方がいると大変ありがたいです。そして来年度もそういった会議を開きたいと思っているんです。そういう状況が落ち着きましたら、昨年度もせっかく情報交換会ということでさせていただいて、またできましたら市の職員の方も、農林水産課の方などが一緒に入っていたらありがたいかなとは思っています。今年度は、別件で魚の方を是非使ってほしいと国の補助金もありまして、今治や宇和島産ではなく、伊予市としては伊予市産を絶対使いたいのでということで、伊予市以外のものはお断りして、そうすると伊予市からも補助金を出しますから伊予市の魚、鯛を使いましょうということで、1月から随時高級な鯛を、天然鯛を入れさせてもらっております。伊予市の魚、鯛を使いましょうと、1月から高級な天然鯛を入れさせてもらっております。それも補助金の範囲内でさせていただいております。こういったこと、できるだけ伊予市のセンターとしても、地産地消を推進しておりますので、伊予市の食材を使いたいのですので、是非来年度もよろしくお願ひします。御協力お願ひします。

田中美和委員

ありがとうございます。それでは次、安渡委員さんお願ひします。

安渡偉典委員

伊予市健康づくりの会でございますが、皆さんと同じように、令和2年度はコロナの影響で十分な活動ができませんでした。しかしながら全体の役員会を各支部1名で参加してですね、各支部での取り組み可能なイベントを出していただいて、健康促進に向けた方法等について協議して参りました。伊予市健康づくりの会は何をしたかと言いますとですね、春のウォーキング、これは伊予市の会員の皆様、それから東温市の健康づくりの会の皆様も参加していただいて、双海支部、南伊予支部、南北山崎支部、郡中支部、中山支部の5支部あるのですが、そこで幹事さんを持ち回りしていただいて、その支部で選んだルート5~6kmをですね、毎年歩いているところです。

それから各支部で皆さんに健康促進に向けた健康セミナー、学習会ですね、それを各支部でやっておりました。

それからまた、秋の一日研修ということで、大型バスを二台で大体90名くらいで、ちょっと遠いところへ行ってそこでウォーキングをして、おいしいものを食べて帰ってくるということをやらせていただいておりました。

令和2年度は、ここにも書いておりますが、全体の役員会を年間4回実施しております。

各支部の取組ですが、双海支部としましては、役員会1回、ラジオ体操、歩こう会などを実施しております。会報ですが、お手元の配布資料でA3判の会報と黄色い資料、これは健康づくりの会で作ってありますが、今回は先ほど言ったウォーキングとか健康セミナーとかできないということがございましたので、健康促進に向けた内容にしようということで、今回は愛大の丸山先生と木下先生にも御協力いただいて掲載していただいて、残りは各支部で、そういった促す記事の内容で、会員の皆様にお配りしております。双海支部は、今回の会報第27号で、新型コロナウイルス感染症とインフルエンザ予防についてという内容で皆さんにお知らせしております。南伊予支部ですが、葉酸が含まれた食材を使ったレシピという内容で、皆様にお知らせしております。南北山崎支部ですが、これは中村地区公民館での料理講習会をですね、10月と12月に実施しております。今度2月、3月に開催する予定にしております。会報におきましては、ウォーキングで健康という内容で皆様にお知らせしております。郡中支部ですが、ヨガ教室を6月から週に1回、30人程度、健康教室を6月から35人程度で実施しております。会報につきましてはですね、「コロナに負けないカラダをつくろう」という内容をお知らせしております。中山支部は、役員会を3回実施しております。会報につきましては、テレビ等でも時々お知らせがあったみたいですが、葉酸についての考え方、身体にいいことを掲載して皆様への促しをさせていただいてい

田中美和委員  
友澤千代委員

ます。以上でございます。

ありがとうございます。続きまして、友澤委員お願いします。

失礼します。今年度の健康づくり・食育関係の取り組み及び課題について、目指す目標項目は、健康づくり、食育の推進、これは全部当てはまると思います。それで取り組みの名称、取り組み内容は、グループ伝達講習会は、今年度は7月から新型コロナウイルス感染症予防に気をつけて実施しました。生涯骨太クッキングは、12月15日に地域住民参加者15名で、講話と調理実習「さんまかば焼きののり巻き、鶏肉と野菜のとりみ煮、カッターチーズの白和え風サラダ、根菜とおからのみそ汁、バナナ入りふんわりパンケーキ」などを作りました。男性のための料理教室は、対象者は男性で、今年度は教室ではなく個々に対する訪問活動に変更して実施しました。シニアプレートを配り、バランスよく食べること、簡単に作れる料理の仕方等を話しました。若者世代の食育、対象者は中高年、訪問で実施しました。パンフレット、ランチプレート、減塩クリアファイル、紅まどんな、レモン、果物の適量のプリント、減塩コンソメを配り、栄養のバランスや減塩について話しました。例えば、1日の果物の適量は持っていった紅まどんなだと1個、減塩の方法としてお醤油をかけるところをレモンをかける、減塩コンソメを使用するなどをお伝えしました。以上です。

田中美和委員  
川中千種委員

ありがとうございました。続きまして、川中委員、お願いいたします。

伊予市養護教諭部会です。今年度はなんとといっても新型コロナウイルス感染症の流行で、養護教諭の中でもこれを一番に考えてやっていかないといけないことになりました。緊急事態宣言で今年度は臨時休業から始まりました。5月の中旬から学校が再開されるということで、子どもたちが安全に学校生活を送れるような対策を行ってきたところです。どんなことを取り組んできたかということですが、まず研修会を開催しました。臨時休校の頃は、まだどんな対策が有効かという情報が出始めた頃だったので、学校を再開するにあたって不安なことだらけでしたので、学校薬剤師さんにいろいろ質問をして、回答をいただきました。物に対する消毒、手指消毒、歯磨き等の手洗い場の使用や清掃活動についてなど、いろいろ参考になる話を伺いまして、少し安心して子どもたちを迎えることができたということです。

それから定期健康診断が、いつも1学期に行っているところだったんですけども、2学期に延期され、消耗品の確保や環境整備などについて、消耗品の確保もなかなか手に入らないところもあって大変だったんですけども、市の教育委員会さんでも手配していただいて、準備することができました。児童生徒への指導として、健康観察の徹底、それから健康診断前の検温、手洗い、手指消毒をして校医さんの前に出るという

形をとっております。それから校医さんによって必要なものも変わってきますので、事前の情報交換を密にして取り組んできました。

3つ目にフッ素洗口のことですが、例年は、新入生のみ同意書を取り、4月当初から実施するところだったんですが、やっぱりフッ素洗口を見合わせたいという保護者もいるかもしれないということで、改めて今年度は、全校児童生徒を対象に同意書をとりました。心配はしていたのですが、ほとんど同意していただいて、フッ素洗口を進めてこれている状況です。

学校行事における感染症対策では、それぞれの学校の対策などを意見を出し合って、自分の学校の対策に活かしてきました。

新型コロナウイルス感染症に関する指導資料の作成と情報の共有においては、それぞれの学校で行っている共通理解事項をまとめたものや、検温チェック票、健康観察カード、掲示物、配布プリント、保健だよりなどを持ち寄って、情報交換を行ってきました。データを「伊予市共有フォルダ」というのがあるんですが、その中にこのような資料を入れて、自分の学校で活用できるものをお互いが使って、対策に取り組んできたということです。

参考資料の一例をそこに載せています。このような資料を使って、子どもたちや保護者の方に指導やお願いをしてきています。これまで以上に感染症対策をしているからか、インフルエンザや腸炎などコロナ以外の感染症が抑えられていると言われてはいますが、市内の小中学校の感染症による出席停止者が前年度と比べると小規模校では95%減、多いところでは100%減ということで、大きい学校でも90%近い減少となっています。まあ実際のところはどうかはわかりませんが、感染症対策、コロナ対策を行っていることが、ひとつ効果として出ているのではないかと感じます。

ありがとうございました。続きまして、坪内委員、お願いいたします。

失礼します。栄養教諭、坪内です。今年度は学校の中では給食指導が大きく変わりました。食べる時にはマスクを外します。一番感染リスクが高い時間帯となりますので、学校の中では教員たち皆で研修を重ね、学校再開の前にはどのような給食指導を進めたらいいか、話し合いの場を何度も持ち、よりよい給食時間を進めるために運営を考えていきました。そして学校側も少しずつ慣れて、スムーズに子どもたちも学校に慣れていきました。

今年度は、コロナ禍における状況の中なのですが、多くの行事が中止になりましたが、給食センター職員と栄養教諭が協力して、できる範囲の中での取り組みをいたしました。毎年行っております1月24日～30日は学校給食週間ということで、このときには、学校給食を啓発すると

田中美和委員  
坪内由紀委員

ということで、給食だよりや、地場産物紹介マップを作成しまして、校内放送の中でも食の大切さを啓発しました。6月の食育月間、こちらの方も放送を行うなどして同じように啓発活動を行いました。

伊予國みそ汁プロジェクトというものが、27年度から実施しております。こちらのプロジェクトは、伊予國みそ汁、子どもたちを対象に、家庭でも飲用を図り、伊予國みそ汁の食材は伊予市産をできるだけ入れるということで、厚揚げや豆腐は県内産の大豆を使っていますが、野菜は全て伊予市産を使うようにしています。また毎月野菜の食材は違うんですけれども、学校給食で出るみそ汁は、伊予市食育の日の14日前後に給食に出るようにしています。伊予市の給食のみそ汁は、全て名前を伊予國みそ汁というネーミングで、27年度からスタートしております。このプロジェクトの中で毎年ポスターを募集していますが、こちらのポスターの募集は中止になっております。

その次は、伊予市の特産物ということで、献立の工夫により伊予市の特産物、またあの伊予市の食材は全て、献立表、毎月保護者の方に配布する献立表には大きな太字で、例えば米は全て伊予市産なんですけど、米は太字、それから伊予市の大根、太字という風に、太字で献立表の方でも紹介するようにしております。

その次は、地場産品の積極的な利用ということで、一番に伊予市産、その次に県内産、次に国産という順番で活用しております。子どもたちにもそういった取組みの意義を学習し、意識付けができるように、いろいろな方法で取組みをアプローチしております。

それから食育参観日ですが、参観日は今年度中止になったこともありますが、本日参観日をむかえてる学校もあったりして、あったりなかったりしている参観日ですが、そういったときに食を題材とした授業風景を参観してもらい、保護者の方にも食に関する意識の向上を図りました。そして、その次には食に関する知識、自ら選ぶ力を習得させるため、私たちや先生方が随時、食に関する指導を行っています。

給食についてのアンケートなんですけど、別紙で本日お渡ししております。また後で紹介させていただきます。

健康相談を、生活習慣病健診の事後指導ということで、食生活指導が必要とされた子どもたちを対象に養護教諭の先生と連携しまして、保護者、そして中には生徒児童と一緒に面談指導を行っています。

アレルギー対応としましては、毎月食物アレルギーの対応が必要と認められた保護者の方と面談を行っています。中学校の中には、生徒も部活動を中断して、生徒も一緒にアレルギー懇談会に参加して、自分の食事ということで、アレルギー除去食は何かを確認しながら面談会を行っています。

この次には今年度伊予農の生徒とコラボしたものがありまして、今日の給食の麻婆豆腐を作ったんですけども、その中に干しシイタケの粉末を入れた麻婆豆腐を本日作りました。それは元々10月に伊予農の生活学科の生徒が7人給食センターに来られまして、一緒にコラボをして干しシイタケを使ったメニューを作りたいということで依頼があり、話し合いをしました。その中でできそうなものがいくつかあったのですが、干しシイタケは使うんだけど、粉末の干しシイタケはなかなか使わないなあということで、麻婆豆腐に使ったらいいかなあという話がそこで出ております。そして11月末には伊予農の方で試作会をおこなったんですけど、ちょうど感染拡大の時期でもありましたので、私たちは試作会には参加ができなかったんですけど、後ほど写真を持ってきていただきまして、そちらを見ながら、この料理いいなあと、いろんな料理、おいしいような料理ができていました。意見を出したり、話し合ったりしまして、出来栄を確認しました。そして本日の麻婆豆腐ができたのですが、干しシイタケが入り、すごくこくがあって、いい出来栄のおいしい麻婆豆腐ができました。そしてあの伊予農のそういったコラボ献立というのをしたんですけど、1月8日のNHKのひめぼんという番組でハイスクール巡りというものをしているんですけど、その取材の中で、この番組で給食でもコラボしているよということで、1月8日に放送の方、取り上げていただいております。

では、また資料の方に戻るんですけども、地域と学校給食の連携ということで、やっぱりあの地場産物を給食にどんどん入れたいんですけども、なかなか量的なもの、配送、それからそういうまとめる方、なかなか大変なところではあるんですけども、佐礼谷ではトマトピューレを作っていたり、タケノコも作っています。そして、干しシイタケは全て伊予市産を使っております。1月に伊予市の農家さんからジャガイモでインカの目覚め、すごくおいしいから使ってみないかと声掛けがあって、インカの目覚めも使わせていただいております。少し価格は高いんですけども、サツマイモみたいですごくおいしいジャガイモが今給食で登場しております。そして秋には、あの伊予市の農家さんがこういったきゅうり、ハートだったりや星型だったりするんですけど、全部ではないんですけど、日によって何本かお星さまだったりハートのキュウリを入れてくださっている日がありまして、サラダやいろんなものに入って、子どもたちがああハートがあった、お星さまがあったと、すごくラッキーキュウリということで喜んで食べていました。そして、それとは別件でシトラスリボンということで紹介していただいたり、こちらは地産地消と関係ないんですけどいろんなところから、学校給食、いろんなことをしているということでアピールしていた

だいております。

そして、アンケートの方なのですが、別紙を本日配布させていただいております。そちらの方のアンケート結果の方を簡単に報告します。こちらの方は1月末に、何年か続けてアンケートを取っています。合計963人のアンケート結果となっております。

まず最初、1番「給食の時間は楽しいですか」左側が小学生4年生、6年生順に、右側は三年間の変化を入れております。今年度は給食時間が、絶対しゃべるなということで、小学生も港南中学校も絶対しゃべるなということで、子どもたち、しゃべれないんですね。マスクは外すのでしゃべれませんので、もちろん輪にもなりません。皆が前を向いて、ソーシャルディスタンスで、皆ががんばってしゃべらずに、だからとても楽しい時間ではないなあとは思ってはいるんですが、まあ何とか今年度の合計1の②番今年度の合計、とても楽しいは38.5%、かなり下がりはしたんですけど、まあ4割程度はとても楽しい、まあまあ楽しいも含めたら、80%くらい、70%くらいは楽しいということで、ちょっと割合は減ってはいるんですけども、給食の時間は楽しみにしてくれているようです。

で、その下2番になります。「給食の味について」ですが、おいしいとまあまあおいしいと答えてくれているのは、今年も昨年度も大体9割程度がおいしいと感じてくれております。おいしくないと今年度回答したのは、小学生は5人、中学生は3人、苦手なものがある、給食時間が楽しくないということが理由で挙がっておりました。

次は3番になります。「おかずの量」なのですが、大体は適量ということかなあと感じております。ちょうどいいが55%、そして多いは5.9%、少ないは4.5%。学校別にみると少ないと感じている学校がいたり、多いと感じている学校があったりしますので、またこちらの方でも配缶する量を、クラスに配缶する、子どもによって体格は違いますので、そちらの方を再確認したいと思います。

「給食で好きなものは何ですか」ということで、これはこの数年間ほぼ変わらないのですが、必ず子どもたちから白ご飯が必ずあがっています。給食の白ご飯がすごくおいしいと言われます。伊予市産の美味しいお米を使っているから、大量に炊くからかもしれないのですが、白ご飯が上位にあがっています。パンだったら、揚げパンが好まれています。主菜は、鶏のから揚げ、中学校だったら鯖のみそ煮、副菜はだんとつできゅうりのピリ辛漬けです。小学校の家庭科給食の1食分の献立を考える授業のときにも、毎回きゅうりのピリ辛漬けを出してほしいという声が出てきます。学習するうちに、緑黄色野菜に変更する場合もあったりするのですが、きゅうりのピリ辛漬けは毎年すごく人気があります。汁

	<p>物は、伊予國みそ汁があがっています。</p> <p>次に5の1「伊予國みそ汁は好きですか」では、好き、まあまあ好きというのが80%くらいになっております。</p> <p>そして6番です。「地場産物が使われていることを知っていますか」では、中学生は学習していく中でほぼ知っています。もちろん知らない人もまだまだいますので、こちらの方はできるかぎり指導をして、給食で地場産物が使われていることをお知らせしていこうと思います。6番の右側の方グラフがちょっとおかしいんですけど、数字の方が正しい数字になっております。</p> <p>給食には、伊予市や愛媛県の地場産物を積極的に活用しています。そして給食放送や学校給食週間中の掲示物、給食だよりで周知しております。伊予國みそ汁には、伊予市産の食材を使います。</p> <p>最後の参考資料ですが、地場産物の活用の取組みとして、こちら平成29年からの地場産物の活用率を載せております。地場産物活用で、愛媛県の目標達成が地場産物40%、目標達成となっております。国は30%ですが、愛媛県は40%、平成29年度は一番下の伊予市産と県内産を合わせて40%ぎりぎりだったのですが、その後からはがんばってできるだけ伊予市産、県産含めて、1月の調査では6割程度が地場産物を使っているという結果になっております。できるだけ地場産物を活用するというところでやっていきたいと思っています。以上です。</p>
田中美和委員	<p>ありがとうございました。以上7名の委員から報告がありましたけども、御意見や御質問がありましたらお願いします。それでは、協議事項2の伊予市の健康づくり・食育推進への取組み状況について、事務局、お願いします。</p>
事務局	<p>事務局の篠原でございます。着座にて失礼します。</p> <p>お送りしていただきました資料2について説明させていただきます。御準備していただいたらと思います。</p> <p>この一覧表は、今年度、市役所各課で実施している健康づくりと食育の事業をまとめたものです。市役所の各課で116の事業を実施しております。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で例年通りの実施は難しく、中止や規模を縮小したものも多くあったようです。</p> <p>当課の事業については、3ページから8ページの方に記載しております。当課においても、コロナの影響を受けており、特定健診やがん検診などの集団健診については、5月、6月は中止とし、7月より開始し、超音波検診につきましては、感染症予防対策が十分にとれないため全日程中止となりました。追加健診を設定しましたが、なかなか思うように受診者数は伸びず、おそらく今年度は減少となる見込みでございます。母子保健事業も含め、集団を対象にする事業については、対象者の時間割</p>

での案内や予約制にするなど、会場内の混雑を防ぎ、感染予防対策を講じながら、保健事業を実施しているところです。

それでは、当課の事業について、ピックアップして説明したいと思います。今年度の新規事業として「大塚製薬との健康増進に関する包括連携協定」について説明いたします。本日配布をしておりますが、こちらの資料2では、5ページの上段に記載しております。株式会社大塚製薬と伊予市が、8月に健康増進に関する包括連携協定を締結いたしました。この協定は、大塚製薬が持つ健康や医療に関する科学的知見を活用させていただき、伊予市の健康課題について提案や御意見をいただきながら、当課と協働し、市民の健康増進を図り、健康寿命の延伸を目指すものです。

連携項目として、健康増進、食育、企業での健康づくり、スポーツ振興、防災の5つの項目で、朝食欠食対策、免疫に関すること、熱中症対策、生活習慣病予防対策、睡眠の質の向上、女性の健康対策など、大塚製薬の持つ知的・人的資源を活用させていただきこととしております。

本日、配布いたしました資料があると思いますが、えっとそれが今年度の取組についてまとめたものです。今年度、大塚製薬との会議や協議を行い、健康課題に対する提案をいただき、8つの取組を行っております。抜粋して説明いたします。

資料を1枚めくっていただき、左上の特定健診の受診率アップの取組状況ですが、大塚製薬から方法の提案や商品の提供を受け、えひめ中央農協伊予支所と協議しまして、今後、総会などの場で集団健診についての説明の機会を頂く予定としております。

次に右上のスライド、3の「心不全を治療中の方やその家族へ」のポスターですが、内容を協議しながら大塚製薬に作成していただき、市内医療機関や薬局などに58か所に配布いたしました。

続いて資料をもう1枚めくっていただき、6の6分間歩行チェックについてですが、それは、大塚製薬から筋力チェックの提案をいただきまして、森のしおさい公園の散歩コースで筋力チェックのための「6分間歩行」を設定いたしました。散歩コースが1周、ちょっと1周の「周」が一週間の「週」と間違っているんですけども、1周617mあり、年代別に歩行の所要時間を表示し、筋力が低下していないかどうかをみるものです。今後、広報などで市民へ周知していく予定でございます。

資料の最終ページになります。8-2健康増進ポスターですが、「毎日の体調管理と免疫力」のポスターについて、こちらの方は伊予市内の学校13校に配布させていただきました。この写真では、港南中学校で廊下に掲示していただいた様子です。現在、伊予市の健康課題に合わせた啓発物の作成、各種健康教室の企画についても協議をしております。

今後も大塚製菓がもつ豊富な健康情報や人脈の提供、またスピード感のある対応に感謝し、今後も民間企業の力を得て、市民の健康づくりを進めて参りたいと思います。

続きまして、食育事業全般に関して説明させていただきます。資料2にもどりまして、5ページから7ページに食育関係の事業を掲載しております。新型コロナの関係で、調理実習室が使用できない期間や使用再開後も利用定員を半数に制限しております。5ページの下から2段目のキッズキッチンなのですが、例年、保育所・幼稚園の年長児とその保護者を対象に実施していた料理教室、こちらの方と、6ページの下からこれも2段目の親子ふれあい健康教室は全日程中止になりました。

また6ページの一番上段にあります栄養相談では、通院治療中、又は健診後の栄養指導の必要な方に、栄養指導を栄養士が実施しておりますが、相談前に体調や体温のチェックを必ずして、相談者の体調のチェックを必ずして、相談者と対角線上に座り、真向かいにならないようにするなどして行っております。

その次の段の離乳食講座については、例年試食と講話を実施していましたが、実施方法を変更し、個別の相談に切り替え予約制で実施しております。その下の次の段の食育推進リーダー研修会は、食生活改善推進協議会のリーダーの方を対象にした健康づくりや食生活改善についての講義と調理実習を行う研修会ですが、年度当初は中止にしていたが、7月から再開し、調理実習の方は密にならないように2つのグループに分けて、いつもの半分の人数で実施するようにしています。

また、先ほどの説明のありました大塚製菓との協定の関係で、大塚製菓の方が愛媛大学附属病院の栄養部長の利光先生と面談の機会ももっていただきました。本計画の推進についての御意見やデータのとり方、現代の食育の課題について、貴重なお話を伺うことができました。今回いただいた意見の中で、子どもの朝食の欠食の課題についてのお話もいただきました。今後、市内栄養士連絡会や養護教諭部会を活用し、保育所や学校などの関係者との連携を図りながら、子どもの食育推進について協議をして参りたいと考えております。

続きまして3ページになるんですけども、3ページの上段にあります市民課（保険年金）が主管となっております、関係課として健康増進課・長寿介護課と記載しておりますが、「高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施」について、少し説明させていただきます。こちら事業名の記載に誤りがあるんですけども、こちらについては、本日お配りしましたA4のカラーの配布資料を御参照いただいたらと思います。

この事業は健康寿命の延伸と医療費削減を目指すもので、高齢者一人一人に対し、心身の多様な課題に対応したきめ細やかな保健事業を行う

ため、運動、口腔、栄養、社会参加などの観点から、高齢者の保健事業と介護予防を一体的に実施するものです。2024年令和6年度までには、全国の市町村で実施することとなっており、今年度より、松山市、宇和島市、四国中央市、松前町、砥部町の5市町で実施をしております。伊予市では来年度から、後期高齢者医療保険を担当する市民課、介護保険や介護予防事業などを担当する長寿介護課、そして高齢者の健診や健康づくりを担当する健康増進課の3つの課が連携を図りながら実施する予定としております。現在、準備会を立ち上げ、3課で実施に向けての協議を行っているところです。

事業内容といたしましては、高齢者の医療・介護・健診などのデータを分析し、伊予市の課題を抽出し、それに応じた事業を展開することとしております。保健師や栄養士などの専門職が家庭訪問や面談などにより保健指導を実施したり、地域の高齢者が通う「ふれあい・いきいきサロン」などの場に出向き、高齢者の状態をチェックし、健康教室や保健指導を行います。そして介護や福祉サービスが必要と思われる方には利用をお勧めすることとなっております。

また、この事業を実施していくうえで、かかりつけ医との連携は必要不可欠でございます。今後、医師会、歯科医師会の先生方に、説明に伺い、事業について御理解、御協力を賜りたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

以上、健康増進課関連の事業説明を終わります。続きまして、資料3の「健康づくり計画における指標の変化」について説明いたします。

着座にて失礼いたします。健康づくり計画の指標の評価について説明させていただきます。今回もこれまでと同様に、算出可能な数値のみ資料3として、事前に皆様に送らせていただきました。そちらの資料を御参照ください。

各指標について、目立って大きな変化があった指標というものはありませんでしたが、こちらでいくつか取り上げて説明したいと思います。

資料3の2枚目を御参照ください。こちらの資料になります。事前に皆様にお送りしている資料になるので、こちらの方、見ていただいたらと思います。

1枚めくっていただいて2枚目を見ていただいたらと思います。④肝疾患の指標についてですが、2020年度評価時はB型肝炎・C型肝炎ともに受検率が増加しています。2020年度は特定健診の自己負担額が無料になったため、新規での申込が多く、そういった方々にB型肝炎及びC型肝炎検査の受検をお勧めした経緯があり、結果、肝炎検査の受検者数の増加につながったと考えます。

次に⑤特定健診・特定保健指導についてですが、受診率・保健指導実

施率ともに上昇し続けています。特定健診受診率向上の取組としては、2020年度は、外部委託による未受診者勧奨事業の実施と先ほどもお話ししましたが、特定健診の無償化の効果だと考えております。

2021年度、今年度は、受診者数を限定したドック健診の実施や国民健康保険以外の保険の扶養者が、集団健診の会場で特定健診を受けることができるようにしました。ドック健診については、特定健診及びがん検診の受診率向上をねらいとし、国保以外の保険の扶養者の特定健診受診に関しては、がん検診もセットで受診できる機会を提供したことで、がん検診受診率の向上をねらいとし、国保以外の保険の利用者の特定健診受診に関しては、がん検診をセットで受診できる機会を提供したことでがん検診受診率の向上を狙いとししました。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、5月6月の集団健診は中止しせざるを得ませんでした。その後、7月より再開しましたが、密になることを避けるために、受付時間を細かく割り振り、会場に入れる人数を制限したり、一人一人の検査が終わる度に検診車の消毒を行うなど、健診委託機関と協力し、感染予防策を講じたうえでの再開となりました。そのため、1度の健診に受入れられる人数が限られてしまったこと、そして、なにより市民の感染への不安等の心情的な事情もあったためか、集団健診での受診者数は前年度より減少しております。次回の評価時に影響すると考えておりますが、次年度も新型コロナウイルス感染の拡大・縮小等の動向をみながらではありますが、感染予防対策を講じたうえでの健診実施を継続することとしております。

保健指導実施率については増加をしておりますが、今後も継続した取組みが必要であると考えております。以上が、部分的にはありますが、中間評価時の数値と最新の数値の比較の報告になります。なお健康増進課として取り組んでいる事業については、資料2にまとめて載せておりますので、そちらも参考にさせていただけたらと思います。

それでは引き続いて、データヘルス計画の中間評価についても、私の方から御報告いたします。お手元のA4ものの1枚、こちらの方の用紙を御覧いただけたらと思います。

この計画は、特定健診の結果や医療情報のデータ、介護保険の認定状況等を分析・活用して、効果的かつ効率的な保健事業を行うための実施計画です。平成30年3月に策定しております。脳血管疾患、虚血性心疾患、糖尿病性腎症による新規透析患者等を減らして、市民の健康寿命の延伸を目標にしております。

計画策定の背景となった伊予市の健康課題を、介護の状況、医療の状況、特定健診受診状況、健診結果の4つの分野から分析し、健康課題を解決するための目標を定めております。

短期的な目標というのは、資料のちょうど中央部分になります。脳血管疾患、虚血性心疾患、糖尿病性腎症の血管変化における共通のリスクとなる、高血圧、脂質異常症、糖尿病、メタボリックシンドローム等を減らすとしております。

中長期的な目標は、短期目標の下になります。脳血管疾患、虚血性心疾患、糖尿病性腎症の3つの疾患の医療費割合を減少させることとしております。

今年度が中間評価の年度に当たりますので、各目標の進捗状況を確認し、保健事業をより効果的かつ効率的に展開するために必要な改善点等を検討して、目標達成に向けての方向性を確認しました。

資料の左下のところにありますが、データヘルス計画目標管理一覧を御覧ください。ここには、短期的な目標、中長期的な目標を達成するためのより具体的な目標が11項目示されています。

初期値、平成28年度の数値と中間評価の令和元年度の数値を比較して、赤丸で示したところが、今年度の課題となる目標になります。

6番の健診受診者の糖尿病患者の割合が増加していること、また、9番の糖尿病性腎症による新規透析導入者の人数が増えていること、そして、11番、虚血性心疾患の総医療費に占める割合が増加していることです。

6番については、健診受診者の増加に伴い、新規の糖尿病患者の割合が増加することは自然な流れであり、これまで表面化されていなかった糖尿病患者を掘り起こすことができたと思っております。大事なものはその先の、掘り起こしできた人たちが早期に医療機関を受診することであり、継続して血糖コントロールをみることだと思っております。これは、7番の糖尿病の未治療者を治療に結びつけるという目標にもつながります。先ほどの指標についてお話した健康づくり計画の「③糖尿病の治療継続者の割合増加」にもつながることでもあります。

そして、健診受診後、糖尿病や糖尿病の疑いのある者に対して保健指導・栄養指導を行い、生活改善をしていくことが、糖尿病を悪化させない、合併症を起こさないということにつながり、結果的には9番の糖尿病の新規透析導入者の減少、10番の脳血管疾患の総医療費に占める割合の減少、11番の虚血性心疾患の総医療費に占める割合の減少につながります。

以上のことから、データヘルス計画の最終評価に向けて、今後強化する取り組みの大きな2つの柱が、資料右下になります。一つ目の柱は、糖尿病性腎症重症化予防事業の強化です。

具体的には、健診結果、医療情報から抽出されたハイリスク者に対しては、適切な受診への働きかけを行う受診勧奨を、家庭訪問を中心に実施することです。もうひとつは、治療中でコントロール不良の者に対し

ても、医療機関と連携した重症化予防のための保健指導・栄養指導を実施すること、さらに、健診受診者で、一度でもHbA1c 6.5以上に該当したのものには、糖尿病管理台帳・KDB、国保データベースを活用した経年の治療状況の把握で、腎機能低下を見逃さず、アプローチをすることです。

そしてもう一つの大きな柱は、虚血性心疾患重症化予防の強化です。具体的には、心電図検査の所見があった者への医療機関受診勧奨・メタボリックシンドロームの該当や血圧、血糖などのリスクを有するものなど、対象者の状況に応じた保健指導を実施していきます。

国はデータヘルス計画を重要な施策として位置づけております。健康増進課といたしましても、今後も計画の実践に向け、効率的、効果的な保健指導の実施に努め、健康格差の縮小につなげていきたいと考えております。また、市民課国保部門との連携、伊予医師会、歯科医師会、薬剤師会等医療関係団体、企業、他の医療保険者と連携体制を構築しながら、市一体となって、健康寿命の延伸、健康格差の縮小を実現していきたいと考えております。以上で、第2期伊予市データヘルス計画中間評価報告を終わりたいと思います。

田中美和委員

ただいまの件につきまして、御意見御質問などがありましたら、お願いいたします。そしたら協議事項の3で意見交換がありますので、お願いいたします。協議事項1につきまして確認とか事務局から報告がありましたけれども、計画推進をはかるため、委員の皆様、何か意見がありましたらお願いいたします。曾我委員、いかがでしょうか。

曾我郁恵委員

坪内先生がされている学校と学校給食の連携ということで、伊予農業高校の生徒さんと協力してコラボメニューというのは、食べる子どもたちと高校生はすごく年齢が近いところにあるので、興味を持って食べてもらえるのではないかなと思っています。

実は私も伊予市ではないんですけど、別の市町村から今大学の方に依頼があって、その久万高原町なんですけど、久万高原町の学生寮のレシピを地域の食材を使ったものでたててくださいということで、今3回生がたてたんですね。そうすると私たちが思いつかないような高校生の目線で献立をたててくれて、今レシピ集を作るところまでいっているんですけど、そういった面ですごく新しいレシピの開発というのは意義のあるものでないかなと感じました。

それから後ですね、地域の食材を、アンケート報告の中で地域の食材を小学生・中学生がどのくらい知っているかというのがあったかと思うんですけど、6番のところですかね、地場産物が使われていることを知っているかということで、えっと、これは給食の時間とか給食の放送をしたりとか、掲示物、給食だよりということなんですけれども、これ以外

坪内由紀委員	<p>に何かされていることはあるのでしょうか。</p> <p>後は伊予市のホームページから毎日の給食を紹介しているのですが、週に1回アップをされていて、日々の給食、そしてそのときにアップをしたもの、レシピ集であったり、毎回ではないんですけど地場産物のことに触れていたりするところがあります。そしてそれ以外では伊予國みそ汁のときには、放送のときに今日の食材、伊予市の食材はこれと、これとこれですと、伊予市の食材を使っているんだなということで、子どもたちは伊予市の食材、地場産物が身近に感じているように思われます。</p>
曾我郁恵委員	<p>ありがとうございます。小学生、中学生と比較してはいけないのですが、私も前に地場産物のことをやったときに、その給食だよりを保護者の方にお渡しして、そこから伝えてもらったりいろいろしたんですけど、子どもたちがいつも目にするところに本物の食材を置くとか、そこで啓発すると、毎日そこを通るので、目にするによって残りやすかったかなというのがありましたので、されていることがたくさんあってすばらしいなと思いました。ありがとうございました。</p>
坪内由紀委員	<p>すみません、ひとつ、本日港南中学校、昨日と今日とテスト、期末テストがあったんですけど、その社会科のテストの中で、愛媛県の柑橘、今年度出たものを述べよとテストの中にも入れてくださっております。</p>
曾我郁恵委員	<p>ありがとうございます。</p>
田中美和委員	<p>ありがとうございました。他に何かございますか。</p>
安渡偉典委員	<p>2点だけ質問させてください。事務局が説明した中間報告書、一番右の下の、あの虚血性心疾患というのは心筋梗塞のことですよ、というのがひとつと、ここにあの悪玉コレステロールは出てないけど、右下の方は、血圧、血糖などのリスクを有するものだと書いてあるんですけど、これは俗に言う悪玉コレステロールは関係ないんですかね。</p>
事務局	<p>虚血性心疾患に関しては、心疾患だったりとか、あとは狭心症とか、そういった心疾患の経過的などところととらえていただいたらいいかなと思います。あとですね、メタボリックシンドロームの該当、この辺りのところには当然脂質異常症も入ってくる項目になってきますし、血圧、血糖のことだけではなくて、この「など」の部分にあの高脂血症だったりが入ってくると思っていただけたらと思います。ただ伊予市のそのデータの中で、出てくる中で、特徴的なものはやはり血圧と糖というところになってくるので、どうしてもその高脂血症に注目していないわけではないのですが、優先順位から考えるとその二つの方が上に上がってくるかなというところで、名称を出さしてもらっているかなというのが、はい、答えになるかなと思います。</p>
安渡偉典委員	<p>はい。ありがとうございました。</p>

<p>田中美和委員 向井早苗委員</p>	<p>市民公募の向井委員は何か御意見ございませんでしょうか。 今、説明で高脂血症と言われてたんで、高脂血症は今はないですよと言ってたんです。質問事項はありません。</p>
<p>田中美和委員</p>	<p>他に何かございませんでしょうか。あの伊予市のデータを見ますと、特定健診の受診率60%以上の目標ということで書かれているのですが、33%と目標にはかなり遠いみたいなんですけど。私の印象では職場健診になるとかなり強制的にやる感じでやらされているので、100%近い受診率されているのではないかと思うんですけど、土井委員、職場健診受診率はいかがですか。</p>
<p>土井一成委員</p>	<p>あの職場につきましては、全て把握しておるわけではございません。いわゆる安全衛生法があり、職場においてはかなり進んでおるという認識であります。</p>
<p>田中美和委員 武本侑也委員</p>	<p>ありがとうございます。他に御意見ございませんでしょうか。 愛媛県はその心疾患死の割合が多いという理由、直接的に食生活なのか、県民性なのか、という前から疑問だったのと、伊予市は特定健診の受診率が低いのは、特に低いというのは、これは何か考えられることがあるのでしょうか。</p>
<p>事務局 竹内竜美委員</p>	<p>県の方で、何かありましたらお願いします。 心疾患につきましては、心不全とかいろいろありますので、具体的にこういう原因で1位ということが、いろいろデータ等については分析を進めておるところですが、今ちょっとこの場でどこらへんが原因でとお伝えするものは、ごめんなさい、ちょっと持っておりませんが、まあ今後あの高血圧が多いということはすごく言われておることで、高血圧と心臓というのは、大変関連があるところあると思いますので、食生活とか生活習慣とかその辺りについて、今後またデータが出るかと思しますので、出ましたら皆様にもお知らせしたいと思えます。すみません。</p>
<p>事務局</p>	<p>それとあと特定健診の受診率が、伊予市はなんで低いのかという御質問なんですけど、こちらについても何が原因という究明はできていないのですけれども、伊予市は県内の下から数えて3位とかぐらいの受診率で低迷しておるんですけど、まあここ数年は一応上昇傾向にございまして、これは先ほども言いましたが特定健診の無料化ですとか、未受診者対策で民間の方の未受診者対策のはがき勸奨をしたりして、少しずつは伸びてきております。そして後、個別の人間ドックなどを導入して受けやすい体制や、レディースデイなどの託児を設けたり、休日の健診実施などいろんな方策をしているのですが、急激に上がってはいけません。まずは少しずつでも多くの方に受けていただいて、やはり受けていただかないと私たちは結果がわからないので、どういう指導していいのかもわからないので、受けていただくことを、当課の方では重要課題と認識</p>

武本侑也委員	<p>して取り組んでいるところです。原因ははっきりはわからない、なぜ低いのかというのがわからない現状ではございます。</p> <p>ちなみに、この健診者の割合って、例えば僕はですね、おとしに人間ドックを受けたんですけど、それはあの農協系の松山の厚生連で受けたんですけど、それはあのそういうとこで受けたのもこの統計に入っていますか。</p>
事務局	<p>特定健診は、40歳から74歳までの方を対象にしているものなので、該当の方であっても個別で人間ドックに行ったり、病院で受診されたりする方もいます。結果を健康増進課に提出していただいたら、一応健診率としてカウントできるんですけど、なかなかそこまで、出されていません。広報などでは是非提出してくださいというのを時々出したりしております。実際には他で受けている方もいらっしゃるのではないかなと思います。</p>
武本侑也委員	<p>他の特定健診じゃない形で、人間ドックとかを個人的に受けている人もいるから、そういうの含めて健診の受診率と考えたらこんなに低くはないだろうということでしょうか。</p>
事務局	<p>そうですね。実際にはもう少しは受けている方がいらっしゃるかと推測はされます。</p>
武本侑也委員	<p>わかりました。</p>
事務局	<p>でも市の情報としては、健康情報がないので、その方には指導できないというところにはなります。</p>
田中美和委員	<p>他にはどなたか御意見ございませんでしょうか。どうぞ、お願いします。</p>
事務局	<p>すみません、ちょっと2点ほど訂正をお願いします。先ほど言われた高脂血症と言ってしまった点があるんですが、高脂血症でなくて、正確な名称は脂質異常症となります。それで後、特定健診の受診率に関してなんですけども、ワースト3と言われてたのは平成30年までの話になります。昨年度は上から数えて一応15番目という、下から数えたら6番目かなというところまで少し上がってきているところを、はい、皆さん把握していただいとったらと思います。はい、以上です。</p>
田中美和委員	<p>ありがとうございました。他には御意見ございませんでしょうか。それでは大体予定時間になっておりますので、他にないようでしたら、以上を持ちまして、議事進行を終わらせていただきます。御協力どうもありがとうございました。</p>
事務局	<p>田中会長ありがとうございました。最後にその他になりますが、委員の皆様から何かございますか。ないようでしたら、事務局からお願いします。</p>
事務局	<p>失礼します。事務局の方からは、皆様の関心の高い新型コロナウイルス</p>

ス接種の本市の取り組みについて、御報告させていただきます。特に資料はございません。まず、接種スケジュールにつきましては、昨日県の方からも、中村知事より現時点で把握している情報の範囲内の想定で県内の接種スケジュールが示されましたが、本市におきましては、3月中旬には新型コロナウイルス診療にかかわる医療従事者が、推計では市内では約1,100人、接種対象としてみこんでおり、4月以降からは65歳以上の高齢者約12,200人に対し、続いて高齢者施設等の従事者約500人と基礎疾患を持つ方約2,300人への接種、続いて一般の16歳以上の方16,700人合計で約31,800人への接種が行われる予定とされております。そのため本市では、こういった接種体制が確保できるのか、本日御出席をいただいております田中先生をはじめまして、医師会の皆様の御意見御協力をいただきながら、現在協議を進めているところです。また、接種対象者となった市民一人一人に対します接種券などに関しては、国からの通知では65歳以上の方に関しては3月下旬までには発送できる準備をしておくこと、それ以外の方には4月中には発送できる準備をしておくこととされており、現在印刷業者との調整を進めているところです。また、市民の皆様からの問い合わせ対応と医療機関の負担軽減を目的にコールセンターを開設するとともに、保健センター内に専用ダイヤルを設置する予定としております。コールセンターの主な業務としましては、市民からのワクチン接種に関する問い合わせ対応及びワクチン接種、予約システムに対応するため、3月中にコールセンターを開設予定としております。専用ダイヤルにつきましては、市民からの接種券に係る問い合わせや接種スケジュール等に関する質問等に対応する専用ダイヤルになりまして、こちらも3月中に保健センター内に開設予定としております。今後はこうしたワクチン接種に関する情報につきましては、広報いよしや市ホームページにおいて周知をしていく予定としておりますので、よろしくお願いいたします。

最後になりましたが、本日皆様からいただいた御意見を参考に、事業の推進に取り組んで参りたいと思います。本日はありがとうございました。

事務局

それでは長時間にわたっての協議、ありがとうございました。以上を持ちまして、伊予市健康づくり・食育推進協議会を閉会させていただいたと思います。ちょっと外が、かなり荒れ模様になっておりますので、皆様大変申し訳ないんですけど、お気をつけてお帰りいただけたらと思います。どうもありがとうございました。